

# 神田通信

◆今年も終戦記念日が巡って来た。昭和生まれにとっては一番複雑な思いのする記念日である。平成は終わるが、平和は続く。

(朝井)

◆長野へ帰省する娘の話。あちらの方が「信州が涼しい」とは以前の話。今はとても暑い」とか。ああ何と異常な!

(奥田)

◆旧のお盆を過ぎると、暑さも峠を越えたようにほっとする。豪雨の被害の一方で、水不足の心配があったり、日本列島は長いと実感する。

(磯田)

◆お盆も過ぎ、夏休みも終盤。子供の宿題は大物ばかり残っています。自由研究、読書感想文、学童の弁当作りも飽き、早く二学期が始まってほしい。(玉井)

(高尾)

◆此の頃ふしぎな夢をよく見る。高校時代の同級生A・B・Cが地中海の会合に普通に出席している。又、強面のDが壊れた踊り場に立ちつくす。

(三好)

◆「本の街」九月号のうなぎ今荘さんの広告に白秋の歌が添えられていた。「驚きつつくく見れば鯉なり一面光る沼のまんなか」。読んでいると、胃袋が立きます。

(茂木)

◆7月22日NHK「短歌で胸キュン」。テーマ「肩」に香川進の「わが肩のたかさの位置に烏なきて震う舌見ゆ萌黄のなかに」(木曾川)が例歌として上げられていました。

(小野)

◆未来は前に広がる——と思っていたが、ユダヤ人は過去が前で、見えない未来は背後なのだという。歴史をよく見て考えよとの示唆か。箴言だ。(和美)

(和美)

◆講談社校閲部の文庫本『間違えやすい日本語実例集』が面白い。かくいう私もアネロの鞆はガマグチ型なのでアネグチと言うのかと思っていた。

(高尾)

◆今夏の豪雨による土砂崩れで親戚が被災との友人の話に言葉なく。早天の畑でいつもの冬野菜の準備を始める。季節に動かされて。

(浜谷)

◆福島自主夜間中学の講師の一人、前川喜平さんは開講日にはほぼ毎回福島にやってくる。八十歳を過ぎた熱心な生徒に新聞記事の言葉や丁寧な解説している姿に頭が下がる。

(藤田)

◆久しぶりに、幼い孫たちと線香花火を楽しんだ。牡丹、唐松、柳、散り菊、しだいに細くなる火花を囲み、声が小さくやさしくなる。

(楢垣)

◆体温超の気温を体験した。この状態をどこかに貯めて冬場に使い、冬場の寒風をこの暑さに吹かせればどんなに良いかと毎年のことながら思う。(田土)

(田土)

◆八月下旬、処暑を過ぎても続いているこの夏の暑さ、どなたも身に堪えたことでしょうか。いくらかでも元気の素をお送りできればと思います。

(高尾)

◆今号は九曜忌に合わせて、「治」に五回にわたって載せていただいた「香川進小論」を了解を得て転載しました。作歌のはじめから戦後の『氷原』あたりまでの、香川進の歩みです。

その先に「地中海」創刊がありました。没後二十年、創刊者・香川進の作品をあらためて読み直してみる機会に!

◆六月から神田歌会に信濃支社の橋場節さんが参加してくれています。それより前からは玉井綾子さんも。若い人が加わってくれることで、歌会もどこかフレッシュな風が吹き通るようです。本社での歌会ほどなたでも参加できます。どうぞお気軽にお問い合わせください。

◆十二月号(十月十日締切の原稿)は自選号になります。自選であっても是非タイトルをつけてお送りください。(久我)

## ●10月・11月の本社予定●

- 10月2日(火) : 校正
- 10月19日(金) : 編集
- \* 10月の歌会はお休み
- 11月6日(火) : 校正
- 11月14日(水) : 編集
- 11月21日(水) 実務会議
- 11月24日(土) : 歌会

# クリップ

誘ください)

00160・4・179569 地中海社

振替用紙の連絡欄に内訳をお書きください。支社・グループでまとめて納入していただくと幸いです。

- 入会届・退会届について
- 葉書に、①氏名(ふりがな)
- ②住所 ③電話番号 ④生年月日 ⑤性別 ⑥送本開始(停止)月を記入の上、本社に提出してください。退会届の場合は、①②⑥の記入をお願いします。急な送本停止には対応しきれませんので、ご了承ください。

## ■会費納入について

三月末をもって会計年度の締めになります。新年度が始まりました。平成三〇年度分の会費を納入してください。会費は、半年分、または一年分を前納することになっていきます。各欄の月額は次の通りです。

- ・ A欄 二〇〇〇円
- ・ B欄 一五〇〇円
- ・ C欄 一〇〇〇円
- ・ 購読 一〇〇〇円

二十歳未満の学生は五〇〇円です。(若い人たちは非ご勧

でも) ②発行時期 ③版元を記入して本社宛に。折り返し、登録した叢書番号と事務手続きの文書をお送りいたします。

出版後には本社保管用に一冊お送りください。

■九曜書林は、比較的安価な歌集出版を考えていて、自分ではどうしていいか分からず困っている方のために立ち上げました。

印刷・製本は、本誌の印刷をしている京成社にお願いしています。二、三〇万円くらいでも予算に応じた出版が可能です。まずは、編集部にご相談ください。

## ■桃原邑子歌集

『沖繩〈新装版〉』注文受付  
ご注文を受け付けています。

一冊2000円(税と送料は桃原氏負担)です。六花書林からの出版ですが、代金の振り替えは九曜書林の口座を使わせていただきます。口座への代金納入をもってご注文とさせていただきます。冊数・氏名を明記の上、左の口座へお願いします。

00160・2・790055 九曜書林

本社よりスマートレターにてお送りいたします。

## ■本社への連絡について

葉書か封書でお願いします。

電話はありますが、常駐する者おりませんので、誰かが本社で作業している時にしか通じません。急を要する場合には、

・藤森：TEL 090-8301-6423  
・久我：TEL&FAX 043-241-7925

までご連絡ください。

■本社の窓口は、いつでも開いています。どんなことでも遠慮なくご相談ください。歌集の出版につきましても、予算やご希望に応じてできる限りの対応をさせていただきます。ご意見その他もどうぞお寄せください。

